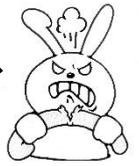


マイナンバー制度反対連絡会ニュース No. 14



連絡先・全労連 Tel03-5842-5611 fax03-5842-5620

2023年7月26日発行

マイナンバーカード強制をやめて 現行の保険証を残こせ！ ～政府は、ただちに、マイナンバーカ ード使用を中止し、トラブルの全容解 明で社会的混乱の收拾を～

- 参議院閉会中審査で追及（別添資料①にて）
- 7月26日「保険証を残してください国会内集会を開催！

マイナンバーカード制度反対連絡会・全国保険医団体連合会・中央社会保障推進協議会主催で、7月25日に衆議院第二議員会館・多目的会議室で「保険証を残してください！」国会内集会を行いました。参加はオンライン含め、主催者発表で600人でした。

司会は全商連の聖生和音さんでした。

国会議員4名が激励あいさつ！！小池晃参院議員（日本共産党）、長妻昭衆院議員（立憲民主党）、福島みずほ参院議員（社民党）、山井和則衆院議員（立憲民主党）芳賀道也参院議員（国民民主党）

初めに、保団連・住江憲勇会長から主催者挨拶。小池晃参議院議員（日本共産党）、長妻昭衆議院議員（立憲民主党）、福島みずほ参議院議員（社民党）から挨拶があり、立憲民主党の山井和則衆議院議員が駆けつけました。小池晃参院議員は「個人情報を経営に利活用という経団連の要望があつてマイナ紐づけを





日本共産党・小池晃参院議員

すすめている」長妻昭衆院議員（立憲民主党）は「マイナポータルで他人の誤登録された障がい・病歴が他人に見られてしまう」福島みずほ参院議員は「高齢者施設でのマイナカードの管理が大変ならば、暗証番号をなくす。とんでもないこと。



立憲・長妻昭衆院議員

河野大臣の一声で任意だったマイナカードが強制になった」芳賀道也参院議員（国民民主党）は「マイナポイントの返納について聞いたら、政府側の回答があいまい。紙の保険証を残せば数々のトラブルは起こらなかった」一緒に保険証を残してくださいアピール！



社民党・福島みずほ参院議員



各団体からの声・発言（保団連・竹田副会長、日本医労連・寺田ゆうさん、障全協・家平さん、東京土建・木村さん、自治労連・板山さん）



保団連・竹田副会長

保団連副会長の医師・竹田智雄さんは「医療現場窓口で10割負担にマイナ保険のトラ



国民民主党・芳賀道也参院議員

ブルにあってはいる患者には申し訳ない。カードリーダーが設置できない医療機関が閉院に追い込まれている」と現場の切実な悲鳴を主張しました。

日本医労連から寺田祐さんは「介護現場はコロナ禍で疲弊し、人手不足、その上マイナ保険証を管理などできる状況にない」と訴えました。

障害者団体からは障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会・家平悟さんは「社会的弱者が医療から遠ざけられる」と障がい者団体の立場から主張しました。



東京土建国保を運営する立場から東京土建・木村潮人さんは「マイナンバーカードの設計ミスを政府を認めようとしなさい」と指摘しました。

自治体職員の立場では、自治労連・板山祐樹さんは「公金口座の一括管理は問題になる」と問題を指摘しました。



最後にマイナンバーカード制度反対連絡会・原英彦事務局長から行動提起。「全国各地で具体的な行動が広がっている。埼玉では6月に2つの町議会で保険証廃止反対の意見書が決議。7月に入り岩手で全国はじめて県議会で決議があがった。地方で連絡会が立ち上がり、宣伝行動を実施。昨日は中央社保協、マイナンバー連絡会が新宿で憲法25条を守る宣伝行動をしました。神奈川では7月20日に「なくすな保険証神奈川県連絡会・準備会」として40名が参加し署

名行動が行われ、8月31日には連絡会が結成される予定。山梨では7月30日に「9条壊すな山梨県総がかり実行委員会」も加わり、野党共



闘や幅広い市民団体で共同の宣伝行動、パレードも予定されている。行動提起は2つです。①新しい国会請願署名を爆発的に広げましょう②全国津々浦々で宣伝署名行動を広げましょう」と近日の地域の動きの報告と行動提起を行いました。



7月25日「軍事費の拡大より社会保障の拡充」と「現行の健康保険証を残せ」宣伝

新宿駅で行動。夕方 17:00～18:00 の短時間で署名に人だかりができ 20 筆を集めました。弁士は日本医労連、中央社保協、マイナンバーカード制度反対連絡会は保険証強制に反対し、保険証を残せと

訴え。

地域のマイナ保険反対の動きをお伝えします（神奈川県社会保障推進協議会・事務局長 根本 隆さん）



7月14日に「なくすな保険証！神奈川県連絡会」準備会を発足し、7月20日16:00～伊勢佐木町ではじめての宣伝行動をしました。保険医協会、民医連、神奈川労連、建設労連、自治労連、年金者組合、県社保協、横浜社保協から28人が参加しました。保険医協会から参加した開業医4人をはじめ、次々と参加者がマイクをとって訴えました。暑い中で、人通りも少なかったのですが、チラシ・ティッシュ500枚が40分程度でなくなりました。市民の関心は高く、「保健証なくすなんてとんでもない」「困ってしまう」の声。署名33筆集まり、シール投票は反対43、賛成0でした。（別添資料②に神奈川新聞の記事があります）





別添資料① マイ
ナンバーで参院閉
会中審査 河野デ
ジタル相 “説明
尽くす”
2023年7月26日
12時11分 (NHK
NEWS WEB)

マイナンバーで参院閉会中審査 河野デジタル相 “説明尽くす”

2023年7月26日 12時11分 マイナンバー

マイナンバーをめぐる問題が相次いでいることを受けて、26日参議院で閉会中審査が行われ、河野デジタル大臣は来年秋に今の健康保険証を廃止する政府の方針について、国民に丁寧に説明を尽くす考えを示しました。また、加藤厚生労働大臣もトラブルへの対応やメリットの周知に努めたいとして方針に理解を求めました。



この中で、

▽自民党の山田太郎氏は、今の健康保険証を来年秋に廃止してマイナンバーカードと一体化させる政府の方針をめぐり、「制度の信頼が非常に揺らいでいる。信頼回復を優先し、来年秋の期限ありきではなく、丁寧に国民からの理解を得るよう努めるべきではないか」と求めました。

河野デジタル大臣は「発行済みの保険証は来年秋から最大1年間の経過措置が設けられており、こうした期間も使いながら丁寧に説明し、不安の払拭（ふっしょく）に努めていきたい。保険証の廃止後もマイナンバーカードや資格確認書を使って、どなたも保険診療を受けてもらえるよう維持していくことに変わりはなく、それをしっかりと国民に伝えていきたい」と述べました。



▽立憲民主党の杉尾秀哉氏は「政府の説明不足は明らかで、来年秋の予定どおりの健康保険料の増徴は世紀の愚策としが言いようがない。撤回を求める世論をどう受け止めているか」とたどしました。

加藤厚生労働大臣は「誤ったひも付けや、現場のさまざまなトラブル、メリットの周知不足といった背景があるが、医療DX=デジタル化を進め、より多くの情報に基づいて、より確かな医療を行っていくことが私たちが目指すべき方向だ。トラブルに対応し、メリットの周知を図るといった努力を一つ一つ重ねていきたい」と述べ、理解を求めました。

一方、河野大臣はマイナンバーカードの自主返納について、「不安を感じる方がいるのは大変申し訳なく重く受け止めている。マイナポータルから、ひも付けの誤りがあるかどうかを本人が確認することも出来るので、そうしたことを丁寧に周知していきたい」と述べました。

河野デジタル相 “必要な仕事をするのは当たり前”

河野大臣は政府がマイナンバーカードの問題を受けて総点検を進めるなか、海外に出張していたことについて問われ、「総点検は、まず自治体などのひも付け機関に、これまでのひも付け方法を点検してもらっている。ひも付け機関からの回答を待っている時期に、必要なデジタル庁の仕事をするのは当たり前のことだ」と述べました。

「今回の調査 丁寧に対応するよう事務方に指導」

政府の第三者機関である個人情報保護委員会がデジタル庁に立ち入り検査を実施したことに関連して河野大臣は「個人情報保護委員会が求める情報が十分に提供できてこなかったことは誠に遺憾だ。今回の検査にあたっては委員会の求めに応じて丁寧に対応するよう事務方にも指導している」と述べました。

加藤厚労相 “千葉と同じシステム利用 トラブル確認を”



マイナンバーカードと一体化した健康保険証をめぐる、千葉県の医療機関で医療費の負担割合が誤って登録されるトラブルが確認されたことを受けて、加藤大臣は「千葉と同じシステムを利用している場合はトラブルが起こる蓋然性が高いので確認をお願いする。他のシステムで同じ事象が発生する可能性がないかどうか速やかに確認したい」と述べました。

地域のマイナ保険反対の動きをお伝えします（神奈川県社会保障推進協議会・事務局長 根本 隆さん）

7月14日に「なくすな保険証！神奈川県連絡会」準備会を発足し、7月20日16:00～伊勢佐木町ではじめての宣伝行動をしました。保険医協会、民医連、神奈川労連、建設労連、自治労連、年金者組合、県社保協、横浜社保協から28人が参加しました。保険医協会から参加した開業医4人をはじめ、次々と参加者がマイクをとって訴えました。暑い中で、人通りも少なかったのですが、チラシ・ティッシュ500枚が40分程度でなくなりました。市民の関心は高く、「保健証なくすなんてとんでもない」「困ってしまう」の声。署名33筆集まり、シール投票は反対43、賛成0でした。（別添資料②）

神奈川県内の開業医ら、従来保険証の存続、併用求める

マイナンバー制度

政治・行政 | 神奈川新聞 | 2023年7月24日(月) 05:00



従来の健康保険証を来年秋に廃止してマイナンバーカードに一本化する政府方針に、県内の開業医らでつくる県保険医協会が反対している。事実上のマイナンバーカード取得の強制につながるほか、「マイナ保険証」は読み取りの不具合で「無保険扱い」となってしまう、医療費10割を請求するなどの事例が発生しているとして、従来の健康保険証の存続や併用を求めている。



従来の健康保険証廃止の賛否を問うシール投票の様子＝20日午後、横浜市中区

20日には横浜市中区のイセザキ・モールで別団体と共同で、来秋の健康保険証廃止の賛否を問うシール投票や署名活動を展開。約50分間で40人以上が参加したが、全員が反対にシールを貼り、賛成にシールを貼った人は1人もいなかった。

投票に参加した平塚市の介護施設職員の男性（33）は「マイナ保険証もメリットはあるかもしれないが、これまでの保険証は災害で停電した際などのバックアップになり、残しておいて困るものではない。急いで廃止する必要が分からない」と話していた。